

一寸光陰不可軽

人国記

新しい小型オープンカーの開発は結局、携わる人数が増えても、最後まで隠れ家のような「リバーサイドホテル」で続けられました。社内の雑音に邪魔されず、居心地がよかったです。それに、もとは駐車場なので、比較対照するライバル車を並べたり動かしたりもできましたしね。

私が「こだわり」を貫いた結果、当然のことながらこだわり以外の部分からは、徹底した軽量化とコスト削減を図らなければなりません。共通化できる部品はないか、「生産工程を削減できないか」など、目標のクリアを目指して部下たちに厳しくハッパをかけ続けたんです。

だからかどうかはさだかではありませんが、誰が言い始めたか、「貴島孝雄の『貴』は『鬼』の間違い。鬼の『鬼島』だ」という「異名」を頂戴し

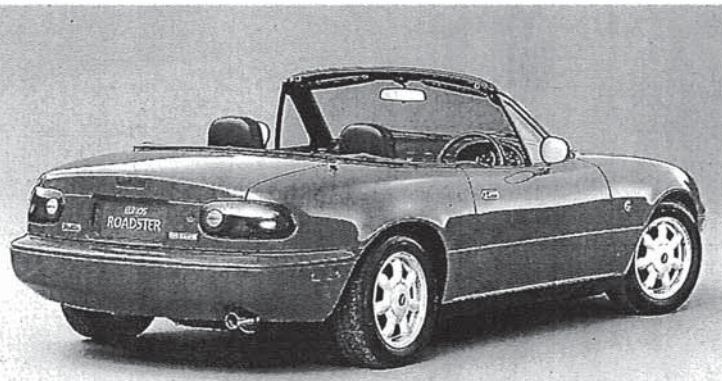
貴島孝雄 (62) ⑱

元マツダロードスター主査

てしまいました。

「こだわり」という点でもう一つ。マツダとしては初めてのことだと思えますが、タイヤメーカー各社に、このクルマのイメージに合う溝のパターンを持ったタイヤを作ってもらおうようお願いしたんです。「オープン2シーターにマッチした趣のあるパターンを」と提案したところ、ある担当者が「グリップ性能がきちんと出ませんよ」と難色を示したので、「このクルマは少々滑るくらいがおもしろい」と言っちゃったんです。最終的には3社がそれぞれ味わい深いパターンのタイヤを作ってくれました。

もちろん私の受け持った領域以外の部分でも、仲間たちがデザインやエン



世界に与えたインパクト

ジンなど、それぞれにこだわり抜いて完成したのが平成元年2月、シカゴモーターショーでデビューした「MX-

平成元年にデビューし、世界中で人気を博した「ユーノス・ロードスター(MX-5・ミアータ)」。マツダ提供
5・ミアータ」です。同年9月には、「ユーノス・ロードスター」として国内でも販売が始まり、予約が殺到して発売初年だけで9307台を売りました。
翌年も世界中で9万3626台を販売する大ヒット。消滅したと思われていたジャンルの市場が見事に復活し、ライトウエイトスポーツカーの本命・MGだけでなく、フィアット、BMW、メルセデスベンツといった名だたる自動車メーカー、カーブランドが次々と小型オープンカーを発売してきたのは、開発者の1人としてとても名誉なことでした。

ただ残念だったのは、このころにはすでに次期「RX-7」の開発にかかっていたこと。このため、海外での発表会や試乗会などに同行できず、ロードスターのセンサーショナルな反響を肌で感じる事ができなかったんです。



九州・山口

産経新聞九州山口版は月々購読料30000円の朝刊紙です。九州山口地域でも、ご自宅や会社に配達いたします。申し込みは下記のフリーダイヤルか、専用サイトで。

ニュースのご連絡は九州総局

TEL 092(741)7088
FAX 092(726)2572
kyushu@sankei.co.jp

〒810-0004
福岡市中央区渡辺通
5-23-8
サンライトビル3階

山口支局

TEL 083(923)3333
FAX 083(923)3334
yamaguchi@sankei.co.jp

〒753-0074
山口市中央3-6-2

購読のお申し込みは

0120(34)3733
www.sankei9.com

販売のお問い合わせは
TEL 092(741)2323

広告のご用は
TEL 06(6633)9474